

日本語の作文技術について

野村幹弘

参考文献：日本語の作文技術 朝日文庫 本田勝一 1982年

以下にポイントを記す。詳細は原著を参考にされたい。文章の善し悪しを判断するとき
は、音読をした方がわかりやすい。

第2章 修飾する側とされる側

◎修飾する側とされる側が離れている（入れ子になっている）とわ
かりにくい。(28p)

例

私は小林が中村が鈴木が死んだ現場にいたと証言したのかと思った。

↓

鈴木が死んだ現場に中村がいたと小林が証言したのかと私は思った。

第3章 修飾の順序

◎節を先にし、句を後にする。(46p)

注：「節」は1個以上の述語を含む複文、「句」は述語を含まない文節とする。

例

「白い紙、横線の引かれた紙、厚手の紙」を一つにまとめる。

1. 白い横線の引かれた厚手の紙（意味が異なる？白い横線？）

2. **厚手の横線の引かれた白い紙** (意味が異なる? 厚手の横線?)
3. **白い厚手の横線の引かれた紙** (意味が異なる? 厚手の横線?)
4. **横線の引かれた白い厚手の紙**
5. **横線の引かれた厚手の白い紙**
6. **厚手の白い横線の引かれた紙** (意味が異なる? 白い横線?)

ここでは「**横線の引かれた**」が節であり、「**白い**もしくは**厚手の**」が句である。

◎長い修飾語は前に、短い修飾語は後にする。(55p)

例

AがBをCに紹介した。(修飾語がないとABCの順序は自由である。自分で並び替えてみよう。)

1. **Aが私がふるえるほど大嫌いなBを私の親友のCに紹介した。**
2. **Aが私の親友のCに私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。**
3. **私がふるえるほど大嫌いなBをAが私の親友のCに紹介した。**
4. **私がふるえるほど大嫌いなBを私の親友のCにAが紹介した。**
5. **私の親友のCにAが私がふるえるほど大嫌いなBを紹介した。**
6. **私の親友のCに私がふるえるほど大嫌いなBをAが紹介した。**

音読してみると、4番が一番自然に感じると思う。

○大状況から小状況へ、重大なものから重大でないものへ記す。(61p)

例

「**初夏の雨が...もえる若葉に...豊かな潤いを...与えた。**」の順番を考える。

初夏の雨がもえる若葉に豊かな潤いを与えた。

豊かな潤いをもえる若葉に初夏の雨が与えた。

上の文の方が自然である。この場合は、「初夏の雨」がもっとも大きな状況を記している。

○親和度の強弱による配置転換が必要である。(70p)

例

「初夏のみどりが...もえる夕日に...照り映えた。」の順番を考える。

**初夏のみどりがもえる夕日に照り映えた。(みどりがもえる?)
もえる夕日に初夏のみどりが照り映えた。**

下の文章の方が誤解されにくい。

第4章 句読点のうちかた

◎長い修飾語が2つ以上ある時、その境界に「、」をうつ。(85p)

例

病名が心筋梗塞だと元気にまかせて、過労をかさねたのではないかと思い、ガンだと、どうして早期発見できなかったのかと気になる。

病名が心筋梗塞だと、元気にまかせて過労をかさねたのではないかと思い、ガンだと、どうして早期発見できなかったのかと気になる。

下の文章の方が自然であろう。

◎原則的語順が逆順の場合に点をうつ。(88p)

例

渡辺刑事は血まみれになって逃げ出した賊を追いかけた。

渡辺刑事は、血まみれになって逃げ出した賊を追いかけた。

長い修飾語が後になっている(第2章参照)ので、「、」がないと誤解を招く場合がある。

以上